

令和元年度

事業所名： グループホーム ひだまり上郷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800084		
法人名	株式会社 WAKABA		
事業所名	グループホーム ひだまり上郷		
所在地	〒028-0771 事業所住所 岩手県遠野市上郷町佐比内46-23-2		
自己評価作成日	令和元年10月25日	評価結果市町村受理日	令和元年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内では工作関係は一部しか参加出来ない事もあり、利用者様全体で取り組める歌を全体を通して毎日職員と共に行っている。(メリットは全員参加出来る事)。又外への散歩を重視し近辺の神社や動物へのふれあいを求め、職員の協力を経て出来るだけ実施する様に推進している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390800084-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390800084-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、上郷地区センターを中心にして、小学校等の社会資源が集積するJR釜石線と猫川に挟まれた地区に立地している。以前は自動車用電装部品の製作を行っていたが、5年ほど前にその工場跡地を活用して事業所を開設し、従来からの企業理念「人と人を心で結ぶ」を引き継ぎ掲げ、地域に根差した事業所として運営されている。これまでも地区センターや運営推進協議会を介し、地域との交流を重ねてきたが、利用者の県外バス旅行に代え、今年初めて地域住民を招待した「焼肉パーティー」を開催し、多くの参加を得ることができた。社長、管理者は、これを契機としてこれまで以上の地域との連携を思い描いている。理念に沿った事業所運営の基本を「一つの家族」とし、利用者をお客様扱いくることなく、足繁く通った神社への参拝や慣れ親しんだ味付けなど、利用者がこれまで培ってきた生活習慣を尊重した介護の実践に、職員の愛犬マリとともに努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年11月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かい笑顔で利用者様と接し人と人を心で結ぶホーム作りを心掛け更に、地域とのつながりを大切にして居ます。	「人と人を心で結ぶ」とする法人の理念は、前身である製造業を営んでいた当時と変わりなく、「一つの家族」として、利用者職員が心をつなげながら、9人の利用者が名実ともに一つの屋根の下で家族として生活出来るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民の方々との交流を職員それぞれに取っている。	60戸程の集落にあつて、利用者は、地域の老人クラブの新年会や小学校の運動会に出かけ、また、毎年訪れる保育園児とは決まって楽しいプレゼントの交換が行われている。開設5年ということもあり、この夏に初めて開いた「焼肉パーティー」には大勢の地域の方々も参加し、事業所を一層理解していただく契機になったとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の住民の方(老人クラブ等)と利用者の交流を通じ、認知症への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に於いて、月々の活動を報告し、アドバイスを頂きながらサービス向上を目指している。	区長や隣接する地域の老人クラブ会長、副会長、人権擁護委員に地区センター、市担当課職員等を委員に、事業所からは社長と施設長が出席し、奇数月の月末に開催している。元消防署長の委員から、避難所への看板設置など、防災関連の提案を頂いている。	運営推進会議は、事業所と地域との結びつきを確かなものとする重要な会議であり、職員も同様の認識等を持つよう、全員が交代で出席する機会を作ることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスに於いて、疑問点があれば、市町村担当者へ逐一報告時にはアドバイスを頂いている。	市の地区センターが主催する、地域の小中学校、福祉施設等の社会資源が一堂に会する月例の会議に出席し、地域の情報等を入手・交換・協議している。要介護認定申請の代行や運営上の相談で市担当課を訪れる機会も多く、指導、助言を得ながら連携を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について理解している、判断がつかない場合は市町村担当者に相談している。	開設以来、身体拘束の事例はないが、「身体拘束に関する同意書」の様式は備えている。高齢の利用者2人について、夜間排泄時の転倒を防止するため、家族の了承を得て感知式センサーを使用している。職員間でスピーチロックに気を付けながら、この辺のどこにでもある家庭同様の自然な会話を心がけているとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様への対応にあたる際、言葉使いや態度に気を付けるなど、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの制度を理解し仕事に活用できるよう努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が納得できるまで、十分な説明を実施しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからの意見はあまり聞かれないが、家族に対してはその都度、きちんと対応をし、今後の運営に反映させるよう努力している。	遠方の方を除き、毎月1回は家族が来所しており、その際に意見・要望等を聴くように努めている。家族からは、「同じ服を着ている」「運動をさせて」などの声を頂くが、その都度、加齢による事情や行っているリハビリ体操等について説明し、理解を頂くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、職員の意見交換は等々行っている。	毎月の職員会議は、非番の職員も含め全員が出席し、行事の持ち方やケアの在り方の相談に加え、職員の意見を把握する機会にもなっている。施設の小修理や洗濯機等の備品の買い替えなどの意見が職員から出され、通常、社長自ら直ちに対応している。シフトは職員間でお互いに融通し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や、労働時間などの見直しが必要と思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会はあるが、実施できていない所もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市等の交流会に参加し、介護に携わる者同士でコミュニケーションを取っている。情報交換を行い、お互いのサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状態・意向を伺う、入居後に安心して暮らせるような関係作りを目指しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望等を伺い信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う事で、その時必要としている支援は何か考えながら対応にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の下ごしらいや、手順などを教えて頂く事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を取りながら一緒に本人を支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中々友人の方達に面会に来てもらう機会はない。地域の老人クラブの方々に定期的に来てもらっている。	利用者の友人は殆どが他界し、訪れる友人・知人はいない。毎日の様に訪れた自宅近くの神社のお参りを希望する利用者が多く、機会あるごとに市内各地域のそれぞれの神社に連れ出し、長年培ってきた生活習慣の継続を支援している。階段を上がって神殿に手を合わせた利用者も、今では車を横付けしなければならない方が殆どである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中に交流の場を作り一人でも多く参加できるよう提案し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約必要後も必要に応じて相談支援を行っている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望を聞きその方にあった支援をしている、困難な方は職員が日々の生活の中を把握して支援を行っている。	利用者の朝の表情から、「家に帰りたい思いが強くなっている」など、その日の過ごし方を考える糸口を探っている。職員が「外に行ってみようか」「新聞読もうか」などと、利用者の気持ちを推察して話す「例示」に応じてもらう形で思いや希望を把握している場合が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から状況・生活環境を聞き、その情報をもとに一人一人にあった支援を実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活リズム・心身状況を観察し、その方の有する能力にあった対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	地域での交流・施設内の会議で話し合い・意見交換を行い介護計画を作成している。	ケアマネが3ヵ月ごとに利用者を観察したモニタリングを行い、その結果を基礎に管理者以下の全職員でアセスメントを行なっている。さらに個人記録に記された医師の意見も踏まえて、ケアマネが計画を作成している。家族には、変更の都度意見を伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で気づいた事を個別に記録を行いその情報を共有し、意見を出し合い実践に役立てている。その結果をふまえ介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族様の状況に対応し、常に何事にも捉われない柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部や地域の方々の支えに甘んじ人との関わりを大事にし楽しみを持つ事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・訪問診療を選択して頂き常に情報を交換・報告に努めている。必要に応じた対応を適宜に対処している。	本人・家族の同意のもとで、8名中6名がかかりつけ医を協力医に変更し、職員が同行して受診している。その他の利用者や特別科受診の場合には、事業所作成のバイタル等の記録持参で家族が同行している。家族に事情がある場合には職員が代わっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常勤は無し、日々の観察の下、必要に応じ、かかりつけ医のアドバイスを受けている。その他体調に応じ早めの受診の促し・対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には常に、病院関係者との連携を密に行い、関係作りを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行っていない、状態に応じた対応を家族と話し合い他施設の申し込み等を事前に説明し、その人に見合った対応を心掛けている。	常勤看護師の確保が出来ていない等の理由から看取りは行っていない。入居時に予め「介護度4以上」は特養へ住み替えとしていることを説明し、同意を得ている。これまで5人前後の利用者が住み替えしている。家族の理解と協力を得て、現在も3名の利用者が市内の特養の空きを待っている状態にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は試行していないが職員会議の際や申し送り時に状態に応じた対応について話し合いをするように心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については未実施な為、今後の課題だと思います。	年に2回、消防立ち合いの下で訓練を行っている。うち1回は近くの市社会福祉協議会運営のデイサービスと合同で行っている。昨年、夜間想定訓練を行い、利用者の誘導手順を確認している。今年の台風15号の際に避難勧告が出されたが、現状、入居者と避難所の兼ね合い等から、止むを得ず事業所に留まったとしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保・言葉かけや対応には常に心掛け対応しています。	管理者は、利用者をお客様扱いすることなく職員とフランクに接する家族とし、そのため言葉掛けは親しみのあるものとし、また、外でも内でも決して利用者の悪口を言わないことを基本にすることで、個人の尊厳を守っている。利用者の個人ファイルは、ケアマネが厳重に管理し、居室のドアは利用者の希望で、季節を問わず開放していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いをなるべく聞き入れながら対応していくように日々努力を重ねています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人を尊重し、自由に生活出来るよう日々観察しその人らしい過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みのものを聞き出し自由に選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備等に関しては消極的です、好みも個々違いますが、好みの聞き出し、皆さんに合うメニュー作りをしています。	利用者のお手伝いは、机ふき、食器ふき、行事食での餅粉団子づくり程度になっているが、職員と食材の買い物と一緒にいる利用者も数人いる。カボチャの煮込みに代表される「醤油・砂糖・塩」で味つけしたものや、昔ながらの食事や調理方法等を利用者は好んでいる。99歳の利用者の誕生日には、事業所からのお祝いとして、紅白のお饅頭を提供した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事・水分等好みに応じた対応、量・バランスを考え、出来る範囲で確保出来る様心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけの促しを行い、必ず夜の食後には個々に口腔ケアの確認を施行しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のサイクルに合わせて定時誘導・声掛けを常に実施している。	8人中7人が自立し、99歳の方を含めた2名が布パンツ、5名がリハビリパンツとし、居室内のトイレを使用している。夜間起床時の転倒に不安がある利用者には、感知式のセンサーを活用して職員が支援している。入院時にはトイレも食事も自分で出来なかった利用者が、事業所に帰って、どちらも出来るようになった例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し等、個人の排便を掃除時に確認・メニューの工夫にも考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回を基本として拒否・体調に応じて曜日の交換を行い出来る限り本人の意向に沿う形を取っている。	日曜を除く毎日、午後の時間に、利用者の希望等に応じて1日3、4人、1人20分程度をかけて、ゆっくりと世間話をしながら入浴している。浴室に1人、着替え等に1人と職員2人がかりで支援している。異性介助の問題はなく、石鹸等の入浴用品は家族が用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	養護等に関しては個々自由に任せている、夜間に関しても安眠出来る様に声かけ・居室の温度や保温に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してはその都度の処方時に説明をし全者で把握し文献もすぐ確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望に沿う形を取るように心掛け、少しでも張り合い・活気が持てる様な取り組みを行う様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の筋力低下を防止する為、個々の能力に応じた散歩・近隣の神社のお参り等出来るだけ出かける様に務めている、地域行事への参加も支援している。	自分から積極的に外に出たがる利用者はいないが、天候と体調が許せば、ドライブで自宅周辺や近所の神社へのお参りを勧め、外気浴を兼ねて出かけている。桜は鍋倉公園、紅葉は旧道の仙人峠が利用者の好む定番となっている。寒さの厳しい地域でもあり、冬期間の散歩は事業所内での歩行に限られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の買い物のお手伝い、お賽銭の所持等の支援を工夫しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身が帰宅願望時本人を通して自宅に電話かけることに関しては希望に沿う支援を実施している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール及び居室の出入りは自由に行き来は可能、環境(温度・湿度)にも注意を行っている。ホール棟には季節感を出す工夫を試みている。	神社に足げく参拝に出かけるこの町の利用者に相応しく、テレビの隣の一段高い位置に備えられた神棚には、お正月にそれぞれの神社からいただいた「お歳神様」が違和感なく貼られている。広々としたホールは、大型エアコンとガスストーブで温度管理され、明るく快適である。豊作の秋らしく、壁には手作りのリンゴの貼絵が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人同士の相性で会話が進み思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の思いが全室居心地が良いか？全体的にホールに居る時間が長い。	ベッド、トイレ、洗面台が設置され、衣装ケースやテレビ、置時計などが持ち込まれ、清掃も行き届いている。壁には家族写真や誕生会にいただいたお祝いのカードが貼られている。世代を超えた交流の証として、訪れた保育園児や小学生から贈られた手作りの小さなお人形が、目に付くところに飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立した生活・危険回避・安全に過ごせるように注意をしている。			